

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(6月15日～6月21日)

2021年6月23日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- EUが第4次対ベラルーシ制裁を発表。米英加も同調。ベラルーシ外務省は反発。(6/21)
- ニュージーランドがルカシエンコ大統領を含む50人以上の入国禁止を発表。(6/17)
- 西バルカン4か国、アイスランド、ノルウェー、リヒテンシュタインがベラルーシの航空機乗入を禁止。(6/21)

【ルカシエンコ大統領動静】

- 領域防衛に関する会合に出席(於:モギリョフ州シクロフ)。

席上、ルカシエンコ大統領は、州や地区の首長らも戦闘訓練を受けなければならない旨発言。

(6/16 大統領府、ベラパン通信)

【外交】

- 欧州連合(EU)はベラルーシに対し、捜査における秘密主義の撤廃を呼びかけるとともに、死刑の執行に抗議。

(6/17 ベラパン通信)

- ニュージーランドがルカシエンコ大統領を含む50人以上の入国禁止を発表。

(6/17 ニュージーランド政府、ベラパン通信)

- アレイニク外務次官とアルトウニャン米国臨時代理大使が会談。

会談で両者は二国間関係につき協議。アルトウニャン臨代は、ベラルーシ駐在米国外交官の員数削減の決定に抗議するとともに、着任待ちが続いているフィッシャー米大使が民主主義を希求するベラルーシ国民を支持している旨強調。

(6/18 ベラパン通信)

- 国連総会でのミャンマーに対する武器禁輸決議に、ベラルーシだけが反対(6/18 於ニューヨーク)

同決議は、賛成119、棄権36、反対1で可決。

(6/19 ベラパン通信)

- EUが第4次対ベラルーシ制裁を発表。米英加も同調。

制裁リストに新たに78人と8団体が加えられた。

要人では、フレニン国防大臣、アブラメンコ運輸交通大臣、カルペンコフ内務次官らの他、大統領の次男D.ルカシエンコ、大統領の長男の婦人N.ルカシエンコ、航空管制関係者や判事・拘置所の責任者らが加えられた。

団体では、「ミンスク自動車工場(MAZ)」、「ベラルーシ自動車工場(BelAZ)」、「ベラルーシ航空管制」、「新石油公社」の他、「ブレミノ・グループ」等の物流企業が制裁対象に加えられた。

(6/22 TUT.BY、Reform.by)

- 対ベラルーシ制裁を受けたベラルーシ外務省の抗議声明

・制裁はベラルーシ国民の利益に悪影響を及ぼし、建設的でも正しいことでもない。

・同時に、「体制を財政面で追い詰める」ためであるとして、ベラルーシの一般国民に対して意図的な破壊的行動が続けられている。これは実際のところ、経済的な宣戦布告と紙一重である。

・西側諸国の一団がこの度の制裁による攻勢を、他ならぬ追憶と屈辱の日、即ち80年前にヒトラーのドイツを筆頭とする「欧州が一丸となって」ソ連に攻め込んできたこの日に仕掛けてきたことは冒瀆である。

・ベラルーシは国家として、自国民と自国の企業を保護するためにできる限りのことを全て行う。制裁や制限は、それを企てた者どもが期待した成果を上げるこ

とはない。

・制裁への対抗措置を講じるよう我々に強いているのはEUであるが、それはベラルーシとEUの間の連携に悪影響を及ぼし、延いては、西側諸国の国民や企業の利益にも影響することになる。

・「制裁合戦というコース」で競い合っている全ての国と欧州の諸機関に対し、知性の声を聞き入れて将来のことを考えるよう呼びかける。

(6/22 外務省)

●アルバニア、北マケドニア、セルビア、モンテネグロ、アイスランド、ノルウェー、リヒテンシュタインが、EUの発動したベラルーシの航空機乗り入れ禁止に同調。

(6/21 ベラパン通信)

●ベラルーシ当局はミンスクの国連代表部に駐在する人権担当上級参事官の活動を停止。

(6/21 国連人権高等弁務官 FB、ベラパン通信)

【内政】

●内務省がニュースサイト TUT.BY のサイトに掲載されていた情報と、同サイトの SNS アカウントを過激主義と認定するようミンスク地区中央裁判所に申し入れ。

また同省は、白赤白の旧国旗と「ジヴェ・ベラルーシ（ベラルーシ万歳）」のスローガンをナチズム的なものの一覧に加えるよう提案。

(6/18 ベラパン通信、TUT.BY)

●国家転覆事件の捜査がさらに4か月延長。

コストゥセフ「ベラルーシ国民戦線党(野党)」議長が親族に宛てた書簡において、検察からその旨連絡があったと述べた。

(6/20 ベラパン通信)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表がホワイトハウスに、ベラルーシ情勢に関する自らの立場を示す書簡を送付。

同書簡は米露首脳会談に先立って送付された。同

氏は、ベラルーシの抵抗運動が地政学的なものではないこと、ロシアがベラルーシにおける危機の解決に加わることができること、ベラルーシの独立や主権が取引の材料とはなり得ないこと等を強調。

(6/16 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ民主勢力代表、シャレンベルク・オーストリア外務大臣と電話会談。

同大臣は、EU加盟国全てが対ベラルーシ制裁に関して意見を同じくしている旨述べた。

(6/18 チハノフスカヤ氏公式サイト、ベラパン通信)

●ババリコ元大統領候補のインタビュー

・ベラルーシでルーマニア型の政権交代が生じれば、ロシアを含めて誰にとっても有益でない。

・ロシアで大統領選挙が行われる 2024 年までに、ロシアがベラルーシを呑み込む恐れがある。

・2020 年 8 月の民衆蜂起が当局にとってあまりに深刻であったため、ルカシェンコ大統領が選挙や国民投票の実施に踏み切ることはないであろう。

・ベラルーシ当局が反対意見を持つ者と対話することはない。交渉が可能となるのは外部勢力からの圧力がかかる場合のみであり、ロシアから働きかけがあれば奏功する可能性が高まる。

(6/18 露 RBC、TUT.BY)

●6/21、チハノフスカヤ民主勢力代表がベルギー及びルクセンブルクを公式訪問。

・同氏は、EU外相会談において自身の立場を説明するため、ルクセンブルクを訪問。ベルギー、ルクセンブルク、スロベニア各国の外務大臣とも会談。

・アセルボーン・ルクセンブルク外務大臣は、ベラルーシ国民と民主化後のベラルーシに対する包括的な経済支援を一貫して支持する立場を表明。

・ウィルメス・ベルギー外務大臣は、ルカシェンコ体制の資金源に最大限の圧力をかけられる、より効果のある制裁につき問題提起した。

・チハノフスカヤ民主勢力代表は、ロガル・スロベニア外務大臣との会談の席上、ベラルーシにつきEU外

相会談で取り上げるよう呼びかけるとともに、東方パートナーシップ首脳会談へのベラルーシの民主勢力代表の参加の可能性につき協議。

【その他】

●ライアンエア社長が英議会交通委員会で証言。

強制着陸させられたアテネ・ビリニユス便の機長には、ベラルーシの航空管制から、ミンスクに着陸するよう大変な圧力がかけられ、着陸後には不審者がビデオカメラを手に操縦席に侵入し、乗員に対して自らの意思で着陸したと言うよう何度も強要。

(6/15 TUT.BY)

●ベラルーシにおける政治囚の数が 500 人を突破。

(6/18 ベラパン通信)

●ベラルーシ経由の不法移民の急増

ベラルーシ・リトアニア国境で、年初から 498 人の不法移民が拘束されており、大半はイラク人。2019 年通年の国境での拘束者は 46 人、2020 年は 81 人。

(6/21 ベラパン通信)

(了)